

令和 3 年度

事業報告書

小松市矢崎町ナ 129 番地 1

社会福祉法人大和善隣館

令和3年度 社会福祉法人大和善隣館『事業報告』

令和3年度における事業報告は、次の通りである。

【1】法人役員構成等

1. 役員の構成

理事長 和田 良一	常務理事 広川 保	
評議員	定数7名以上12名以内	(令和4年3月31日現在10名)
理事	定数6名以上10名以内(理事長・常務理事含)	(令和4年3月31日現在9名)
監事	定数2名以上	(令和4年3月31日現在4名)

2. 評議員会開催

開催年月日	出席数	議 決
令和3年6月16日 開会:14時00分 閉会:15時05分	評議員10名 理事10名 監事2名	議案第7号 令和2年度事業報告 ・計算書類・財産目録の承認・監事監査報告・社会福祉充実残額 議案第8号 令和3年度資金収支補正予算について 議案第9号 理事の選任について 議案第10号 監事の選任について 議案第11号 定款の一部変更について
令和3年6月16日 開会:15時20分 閉会:15時30分	評議員10名 理事10名 監事2名	議案第12号 顧問の承認について
令和3年11月25日 開会:17時00分 閉会:18時00分	評議員9名 理事8名 監事4名	議案第13号 顧問の承認(追認)について 議案第14号 定款の一部変更について 議案第15号 諸規程の一部変更について 議案第16号 令和3年度資金収支補正予算について 議案第17号 社会福祉法人役員等の賠償責任補償契約について
令和4年3月17日 開会:15時15分 閉会:16時30分	評議員9名 理事9名 監事4名	議案第1号 令和3年度資金収支補正予算について 議案第2号 令和4年度事業計画について 議案第3号 令和4年度資金収支予算について 議案第4号 令和4年度資金収支補正予算について 「その他」 ・女性活躍推進法「一般事業主行動計画」届出について ・新型コロナウイルス感染状況について

3. 理事会開催

開催年月日	出席数	議 決
令和3年5月12日 書面決議	理事10名 監事3名	議案第11号 評議員選任候補者の推薦について 議案第12号 評議員選任解任委員会の招集について 議案第13号 諸規程の一部変更について 議案第14号 大和こども園建物の所有権保存登記について
令和3年6月7日 開会:13時50分 閉会:15時10分	理事10名 監事3名	議案第15号 令和2年度事業報告 ・計算書類・財産目録の承認・監事監査報告・社会福祉充実残額 議案第16号 令和3年度資金収支補正予算について

		議案第 17 号 役員候補者等の推薦について 議案第 18 号 定款の一部変更について 議案第 19 号 評議員会の招集について 議案第 20 号 評議員選任解任委員の選任について 議案第 21 号 松陽こども園隣地土地取得について 「その他」 ・高額物品の購入及び高額修繕工事等表 ・理事長及び常務理事の執行状況報告
令和 3 年 6 月 16 日 開会:15 時 10 分 閉会:15 時 15 分	理事 10 名 監事 2 名	議案第 22 号 理事長及び常務理事の選定について 議案第 23 号 顧問の推薦について
令和 3 年 10 月 20 日 書面決議	理事 9 名 監事 4 名	議案第 24 号 評議員会の招集について
令和 3 年 11 月 25 日 開会:16 時 00 分 閉会:16 時 50 分	理事 8 名 監事 4 名	議案第 25 号 定款の一部変更について 議案第 26 号 諸規程の一部変更について 議案第 27 号 令和 3 年度資金収支補正予算について 議案第 28 号 社会福祉法人役員等の賠償責任補償契約について 「その他」 ・理事長及び常務理事の執行状況報告
令和 4 年 2 月 18 日 書面決議	理事 9 名 監事 4 名	議案第 1 号 評議員会の開催について 「その他」 ・理事長及び常務理事の執行状況報告
令和 4 年 3 月 17 日 開会:13 時 25 分 閉会:15 時 00 分	理事 9 名 監事 4 名	議案第 2 号 令和 3 年度資金収支補正予算について 議案第 3 号 諸規程の一部変更について 議案第 4 号 令和 4 年度事業計画について 議案第 5 号 令和 4 年度資金収支予算について 議案第 6 号 令和 4 年度資金収支補正予算について 「その他」 ・女性活躍推進法「一般事業主行動計画」届出について ・新型コロナウイルス感染状況について

4. 評議員選任解任委員会開催

開催年月日	出席数	議決
令和 3 年 5 月 21 日 開会:14 時 00 分 閉会:14 時 25 分	全委員 7 名	評議員の選任

5. 法人監査

開催年月日	出席数	指摘事項
令和 3 年 5 月 17 日 及び 18 日 開会:09 時 30 分 閉会:14 時 00 分	監事 3 名	指摘事項なし

【2】法人本部事務局

「法人名称変更」及び「法人所在地移転」と令和の新時代に大和善隣館が新生の第一歩を刻む 1 年となった。

新たな地でこれまで以上に地域・地元に関われる存在になれるよう努め、社会に貢献する法人として未来永劫存続するよう最善を尽くす。

令和 3 年 4 月 1 日に SDGs 宣言をした。法人運営の上でも目標とすべき 6 つのゴール(開発目標)に絞り宣言。達成年限である 2030 年に向け各種取組を実践中である。身近なところでは会議でのペーパーレス化や給食材料の食品ロス削減、また子どもたちや保護者、職員自身が自宅でも取組可能な節水・節電・資源の無駄遣いを無くす等、自らの意識で実践できることから始めることが重要である。電気契約プランを水力発電 100%、CO2 排出量ゼロの環境保全に寄与した「北陸電力アクア ECO プラン」に変更、公用車の購入に PHEV 車、太陽光発電装置設置に伴う CO2 排出の削減等、法人としても取組可能な範囲において引続き実践していきたい。

昨年度に引続き新型コロナウイルスの猛威は衰えることなく、この状況下で感染対策を取りながらも、共生に舵を取る必要がある。こども園においても社会活動の維持のため感染対策を徹底し、子どもたちの受入れを行っている。子どもたちを預けられないことで経済活動が衰退することがないよう、我々に課された役割の重要性を再認識し運営してきた。

来年度以降も気を緩めることが出来ない状況下が続くことは必至であるが、コロナ禍だからこそ今までになかったような取組に「チャレンジ」してみようと前向きに考えていくことも重要である。また、災害等の緊急事態等に備えた BCP(事業継続計画)策定も、運営していくうえにおいて、非常に重要なことから早期策定が急務である。

コロナ禍から 2 年が経過し、未だ落ち着く気配は見受けられないが、コロナ慣れすることなく、基本的な感染予防策を徹底し、この地道な努力が報われる日が来ることを想像し、次年度に希望のバトンを繋げる 1 年となった。

1.施設一覧表

施設名	定員及び児童 (講座生)数	開設年月日 ()は保育所開設	住所
幼保連携型認定こども園 大和こども園 施設長:池田 巧	275 名	平成 27 年 4 月 1 日 (昭和 19 年 6 月 15 日)	小松市大和町 102 番地
大和こども園分園やぎぎ乳児保育園 施設長:池田 巧(本園兼務)	29 名	令和 3 年 4 月 1 日	小松市矢崎町ナ 129 番地 1
幼保連携型認定こども園 松陽こども園 施設長:森 都	155 名	平成 27 年 4 月 1 日 (平成 17 年 4 月 1 日)	小松市大領中町 1 丁目 171 番地
幼保連携型認定こども園 月津こども園 施設長:荒井 早苗	145 名	平成 27 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	小松市月津町め 57 番地
幼保連携型認定こども園 中海こども園 施設長:片桐 真二	105 名	平成 30 年 4 月 1 日	小松市軽海町ノ 16 番地 4
幼保連携型認定こども園 蓮代寺こども園 施設長:堂前 弘美	105 名	平成 30 年 4 月 1 日	小松市蓮代寺町に 173 番地
芦城児童クラブ 1 施設長:田中 琴乃	45 名	平成 17 年 4 月 1 日	小松市西町 25 番地
芦城児童クラブ 2 施設長:田中 琴乃	45 名	平成 22 年 4 月 1 日	小松市西町 25 番地
蓮代寺児童クラブ 施設長:竹下 沙知	25 名	平成 31 年 4 月 1 日	小松市蓮代寺町ハ丙 16 番地
大和ぬくもり大学 学長:朝岡 明美 施設長:広川 保	500 名	平成 4 年 7 月 1 日	小松市相生町 11 番地
本部事務局			小松市矢崎町ナ 129 番地 1

①SDGs宣言に関連する取組

②高校生の職場体験実施

③女性活躍推進法に基づく「一般事業主行動計画」策定・届出

④iDeCo+(イデコプラス)取扱い制度開始

3.職員の配置(事務所並びに施設)

令和4年3月31日現在在籍者数

[illegible]

【3】施設関係

1. 幼保連携型認定こども園 大和こども園の経営

昭和 23 年 11 月 1 日児童福祉法により認可(平成 23 年度より定員 280 名)

平成 27 年 4 月 1 日幼保連携型認定こども園に移行し、定員は 275 名(内訳は 1 号 15 名/2 号 155 名/3 号 105 名)に減員

平成 28 年 4 月 1 日大和保育園から「大和こども園」に名称を変更

(1) 事業実績の概要

●主たる整備事業

特になし

●教育及び保育事業

めざす子ども像を「やりたいことにチャレンジする子」とし、法人の保育の基本方針(三つのゼン)を踏まえ、教育・保育課程運用の視点を、安全(安心・信頼)、自然(関わりたくなる環境づくり)、積善(自信・達成感の醸成)として保育を展開した。めざす子ども像を示したことは、主体性を生かした保育のめやすとなった。園内の研修では、金城大学短期大学部和泉客員教授を招聘した。招聘した回数は限られたものの、若手の職員の実践に指導・助言をいただいたことにより、OJT と兼ねることができた。予定していた県外視察は、感染症の影響で実施を見合わせたが、2, 3 年目の若い職員には、自己の課題克服に向けての OJT を運動会や発表会の取り組みに合わせて実施した。

障がいや発達上の課題のある園児への支援では、年間15回にわたり小松市発達支援センター等の職員の訪問を要請した。支援会議から個の理解の深まりと具体的な支援の明確化を図ることができ、個の成長を支えることができた。虐待の疑いがある事案は、子ども家庭課や児童相談所と緊密に連絡を取り合い、対処することができた。外国籍の園児に対しては、通訳を配置し、該当する園児へのサポートの他、保護者と園との連絡・調整に努めた。

●子育て支援事業

未就園児親子を対象とした地域子育て支援拠点事業は、分園となるやざき乳児保育園で実施した。子育てに関する相談窓口は、ホームページ上に開設し、相談に応じられるようにした。また、地域に発信する情報誌「ぽかぽか大和」は今年度も年 2 回発行し、地域の町内会を通して各世帯に回覧した。

●その他

ノンコンタクトタイムの確保については、試行錯誤しながら取り組みを進めたが、十分とは言えず、今後も工夫しながら、よりよい方法を模索していきたい。

感染症への対応では、県市の状況に応じ対策を講じた。行事での保護者参加については、参加の分散化と人数制限等行い実施した。

(2) 月別在園児童数

大和		定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3号認定	0歳児	30	3	7	11	12	14	17	18	20	22	22	23	24	193
	1歳児	35	34	34	35	35	36	36	36	36	36	36	35	35	424
	2歳児	40	43	43	43	42	41	40	40	40	40	40	40	40	492
2号認定	3歳児	45	35	35	35	34	34	34	33	33	33	32	32	32	402
	4歳児	55	28	28	29	29	30	30	30	30	30	30	30	30	354
	5歳児	55	38	38	37	39	39	39	39	39	39	39	39	39	464
1号認定	満3歳児	0	0	0	0	1	2	3	3	3	3	3	3	3	24
	3歳児	5	5	5	5	6	6	5	5	5	5	5	5	5	62
	4歳児	5	7	7	7	8	7	7	7	7	7	7	7	7	85
	5歳児	5	3	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	18
		275	196	200	205	207	210	212	212	214	216	215	215	216	2,518

(3) 特別保育事業実績数

事業(件数)	体調不良児保育	子育て支援「園開放」	延長保育	一時預かり	休日保育
令和 2 年度	17	0 組	2,997	23	未実施
令和 3 年度	38	分園に移管	2,905	36	208(法人計)

2.幼保連携型認定こども園 松陽こども園の経営

昭和 29 年 4 月 1 日・定員 80 名の認可を受け開設。

平成 17 年 4 月 1 日・より小松市より受託経営開始。

平成 18 年 4 月 1 日・定員 140 名で直接経営開始(平成 25 年度より定員 170 名)

平成 27 年 4 月 1 日・幼保連携型認定こども園に移行し、定員は 170 名(内訳は 1 号 15 名/2 号 80 名/3 号 75 名)

平成 28 年 4 月 1 日・施設名称を「松陽保育園」から「松陽こども園」に変更

(1)事業実績の概要

松陽こども園は、保護者の就労状況等に関わらず、就学前の子どもに対して教育・保育を一体的に行うとともに、園に通っていない子どもの家庭も含めて地域で必要とされる子育て支援を行う施設である。そしてこれらの子どもたちの健やかな成長が図られるよう適切な環境を用意し、その心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育て支援を行うことを目的とする。

教育保育の目標として「心身ともに健やかな元気な子ども」元気なからだ・やさしいこころ・がんばるちからのものと、日々保育をすすめる。特に子どもたちが安心感と信頼感をもって活動に取り組めるようより良い環境を作り、子どもが自発的、主体的に遊ぶ中で「生きる力の基礎」を育んでいく。特に幼児期においては自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、子どもの心が安らぎ、豊かな感情や好奇心、思考力、表現力の基礎が培われ自然との関わりを深めることができるように努めてきた。

新型コロナウイルス感染症が流行する中、保護者の就労支援、子どもの成長発達の間として未就児施設が果たす役割は大きくなっている。しかしながら従来の安全対策や保護者(リスク)コミュニケーションでは対応できない場面も増え、対応のための最新情報と知識、スキルの獲得が急務になってきた。そんな状況下、保育・教育は子どもたちのためにあるものという考えのもと行事は予定通り行うこととし、子どもたちの主体性、自発性を重視した行事への取組について職員間で話し合いを重ねた。特に夏まつり、運動会、発表会では保護者が参加できない中、子どもたちの日々の成長の様子を写真編集した「ドキュメンテーション」や「動画」配信の手段を使い伝える事とした。しかし、園での大きな目標である地域との連携に関してはほとんど機能せず、情報誌の作成配信のみにとどまる。さらに地域の子育て支援室「ぽけっとサン」での親子の交流の促進、相談、援助の実施については回数と人数を減らさざるをえなかった。

その他大きく変化した点では職員の資質向上に向けた研修の受講はほとんどがリモートに変更になり、施設での保健衛生の取組はコロナウイルス感染で職員の負担がとて多くなってきた。このような急激な変化の中、子どもたちが安心感と信頼感を持ち活動ができるよう環境を通してのあり方を基本とし、主体的な活動をさらに自発的な活動としての遊びを中心として教育・保育を行ってきた。

(2)月別在園児童数

松陽		定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3号認定	0歳児	20	10	12	13	13	14	16	16	17	17	19	20	20	187
	1歳児	20	28	28	28	29	30	30	30	30	30	30	30	30	353
	2歳児	20	25	23	23	23	21	21	21	20	20	20	20	19	256
2号認定	3歳児	25	27	26	28	28	28	26	26	26	26	26	26	26	319
	4歳児	25	19	19	19	19	19	19	19	21	21	21	21	20	237
	5歳児	30	11	12	12	12	12	12	12	15	15	15	15	15	158
1号認定	満3歳児	0	0	1	1	1	2	2	2	4	4	4	4	4	29
	3歳児	5	5	5	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	57
	4歳児	5	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	31
	5歳児	5	7	7	7	7	7	7	7	4	4	4	4	4	69
		155	135	136	138	139	140	141	141	144	144	146	147	145	1,696

(3)特別保育事業実績数

事業(件数)	休日保育	体調不良児保育	子育て支援「園開放」	延長保育	一時預かり
令和 2 年度	242	53	359 組	653	33
令和 3 年度	大和に移管	80	350 組	791	34

3.幼保連携型認定こども園 月津こども園の経営

平成 24 年 4 月 1 日・小松市立保育所民営化事業を受け直接経営開始(定員 120 名)

平成 26 年 4 月 1 日・施設の名称を「月津保育所」から「月津保育園」に変更するとともに、定員 130 名に増員

平成 27 年 4 月 1 日・幼保連携型認定こども園に移行し、定員は 140 名(内訳は 1 号 10 名/2 号 70 名/3 号 60 名)に増員

平成 28 年 4 月 1 日・施設の名称を「月津保育園」から「月津こども園」に名称変更

平成 29 年 4 月 1 日・定員を 145 名(内訳は 1 号 10 名/2 号 70 名/3 号 65 名)に増員

平成 30 年 4 月 1 日・利用定員(1 号 15 名/2 号 70 名/3 号 60 名)の変更

(1)事業実績の概要

令和 3 年度は、引き続きのコロナ禍のなか、感染対策の徹底とともに教育・保育の在り方を職員間で模索しながら進めていった。日々の保育をはじめ、夏祭り、親子遠足、保育参観、運動会、発表会、卒園式等の行事においても職員間で話し合いを重ね、子ども、保護者にとってわくわくするような子ども主体の教育・保育となるよう取り組んでいった。

“善隣の心”の理念のもと、教育・保育方針 “三つのゼン”安全・自然・積善より、教育・保育目標である「心身ともに健康な子ども」「自然を大切にする子ども」「自分で考えて行動できる子ども」を念頭に、日々の子どもの遊びが豊かに展開できるよう人的及び物的環境を工夫するとともに、園児一人一人が主体性を発揮して活動できるよう「子どもの主体性を大事にした教育・保育」を合言葉に職員間で共通理解を進めていくように心がけた。保護者にも主体性を大事にした教育・保育の理解を得られるよう、日々の連絡帳、クラス通信、園だより、動画配信等で具体的に伝えてきた。年度末の保護者アンケートより、子ども主体の教育・保育に理解を示してくださった保護者の方が数多くいることに次年度への意欲につながり、さらにステップアップできるよう取り組んでいきたい。

新型コロナウイルス感染症対策においては、子どもの安全と環境を確保するために、3密状態を避けることや換気、手洗い、マスク着用(2歳以上児)、室内の清掃、消毒の徹底そして専任看護師による感染拡大状況の把握や子どもたちへの感染予防についての衛生指導を随時行った。

地域の自然環境を活かした様々な活動や、科学への興味と関心を深めるサイエンス活動、食への興味と感謝を学ぶための野菜の栽培、クッキング活動、お味見当番などコロナ禍の中ではあったが、職員間で話し合いながら進めていった。戸外での活動では、季節の移り変わりを身体で感じながら草木や昆虫などに触れることで、その不思議さや美しさ、おもしろさに心動かされる豊かな自然体験を得ることが出来た。外部講師とともに行った山歩きの体験はまさしく子どもたちの心を動かされた体験となった。また、「体育教室」や、「リトミック」「ミュージックケア」は、それぞれの年齢に合った活動に配慮した。さらに令和 3 年度は地域の方の指導により、年長児が和太鼓に触れることもできた。運動会、卒園式に披露することができ、子どもたちの自信へとつながった。地域の行事への参加及び小学校との連携、接続などは対面的にはできなかったが小学校長と常に連絡を取り合い、zoom を使ったの連絡会や一年生と zoom でつながったの活動を行ったりした。さらに令和 3 年度の卒園式は、小学校の体育館にて行った。小学校との連携が取れていたこともあって快く使わせていただき、学校側からの協力も得ての卒園式となった。今後も ITC を活用したり、感染予防対策を行いながら、職員間、さらには地域間で共有したり、共通理解をもって進めていきたいと考えている。

未就園児対象の園開放はコロナ禍の中では中止となっているが、子育て支援を必要とする親子のために、情報誌の配布や SNS 等を使っただけのつながりを試みたがなかなか浸透せず、今後の課題となった。新入児への説明会は zoom を使って初めての試みだったがうまくいった。

職員においては、ノンコンタクトタイムを利用することで仕事の効率化をはかることが出来たが、取得の仕方等にまだまだ課題が残っているので今後も工夫をしていく。また、年間通して外部講師に依頼し、子どもの主体性を大切にしたい教育・保育について学び、職員同士が気楽に語り合う園内カンファレンスとなるよう、専門性の向上に努めた。また、研修会も zoom 研修の確保に努め、参加を勧めていった。今後も自分たちの教育・保育の課題を検討しながら更なる向上を目指し頑張っていきたい。

そして令和 3 年度は月津こども園が民営化になり 10 年目を迎える年であることを記念し、「月津こども園 10

周年誌」を保護者会の協力により制作することができた。

(2)月別在園児童数

月 津		定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3号 認定	0歳児	15	5	6	7	7	8	9	11	11	12	13	13	13	115
	1歳児	20	20	20	20	22	22	22	22	22	22	22	22	22	258
	2歳児	25	16	17	17	16	16	15	16	15	14	14	14	14	184
2号 認定	3歳児	20	24	24	24	24	24	24	25	25	25	25	25	25	294
	4歳児	25	18	18	18	18	18	18	19	19	19	19	19	19	222
	5歳児	25	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324
1号 認定	満3歳児	0	0	0	0	1	1	2	1	2	3	3	3	3	19
	3歳児	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
	4歳児	5	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	66
	5歳児	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
		145	125	127	128	130	131	132	135	135	136	137	137	137	1,590

(3)特別保育事業実績数

事業(件数)	体調不良児保育	子育て支援「園開放」	延長保育	一時預かり
令和2年度	30	0組	139	41
令和3年度	83	0組	756	29

4.幼保連携型認定こども園 中海こども園の経営

平成 30 年 4 月 1 日・小松市立保育所民営化事業を受け直接経営開始(定員 105 名)

同時に幼保連携型認定こども園に移行(内訳は 1 号 4 名/2 号 62 名/3 号 39 名)

施設名称を「中海こども園」とする

平成 31 年 3 月 19 日・新園舎完成(同年 4 月 20 日、落成式)

令和 1 年 11 月 ・園歌「にじのかけはし」制定

(1)事業実績の概要

①教育保育事業

令和 3 年度も新型コロナウイルス感染症対応を要する 1 年であったが、感染状況が落ち着いている時期には、3～5 歳児の運動会と表現会、0～2 歳児の保育参観、5 歳児の親子遠足等を十分な感染対策を取った上で、従来のやり方にとらわれず保護者の参観・参加のもとで実施することができた。

日々の教育・保育活動においては、環境や地域の人とのつながりを大切にした活動や野菜作りを生かした食育を行うとともに、SDGs について子どもたちにわかりやすく伝えるようにした。

教育保育の質の向上の 1 つとして、主体性を尊重し、遊びを通して様々なことを学び、生きる力を身につけていけるよう日々の実践と研修を推進してきた。その結果、実際の活動の中で以前よりも主体的に活動する子どもの姿が見えるようになってきた。それが最も顕著に表れたのは表現会で、園児が普段の園生活で興味を持って取り組んでいることについて、子どもたち自身が意見を出して表現していた。その一方で、取り組みの進展により保育者自身が自らのやり方に対して本当にこれでよいのか悩むことも出てきた。このことを取り組みが進んできたことの表れと捉え、令和 4 年度の取り組みにつなげていきたい。

園内研修の一環で教育・保育の方針「安全・自然・積善」について再確認したことにより、これまでの教育保育を客観的に振り返るとともに、今後の取り組みについて考えるよい機会となった。また、外部講師の招聘、リモートや動画による講演視聴を行い専門性の向上に努めた。前述した子どもの主体性を尊重した教育保育の推進やキャリアアップ研修も含めて、人材育成に寄与したものと思う。

なお、「安全・自然・積善」それぞれについて及び園の SDGs の取り組みについては、地域情報誌で啓発に努めた。

②子育て支援事業

新型コロナウイルス感染拡大の影響等により、思うように取り組むことができなかった。そうした状況でも、気になる家庭には電話による状況把握や園の情報誌の提供を行い、つながりを保つようにした。

(2)月別在園児童数

中海		定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3号認定	0歳児	8	2	4	4	5	6	8	8	9	12	13	13	13	97
	1歳児	11	8	8	8	8	9	9	9	9	9	10	9	9	105
	2歳児	20	13	12	12	12	12	12	12	12	12	11	9	9	138
2号認定	3歳児	16	11	12	12	11	11	11	11	11	12	11	13	13	139
	4歳児	17	9	9	9	9	9	8	8	8	8	7	7	7	98
	5歳児	18	12	12	13	13	14	14	14	14	14	16	16	16	168
1号認定	満3歳児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	3	7
	3歳児	5	6	5	5	6	6	6	6	6	5	6	4	4	65
	4歳児	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6	7	7	7	70
	5歳児	5	5	5	4	4	3	3	3	3	3	1	1	1	36
		105	71	72	72	73	75	77	77	78	81	83	82	82	923

(3)特別保育事業実績数

事業(件数)	体調不良児保育	子育て支援「園開放」	延長保育	一時預かり
令和 2 年度	32	0 組	164	122
令和 3 年度	58	0 組	474	120

5. 幼保連携型認定こども園蓮代寺こども園の経営

平成 30 年 4 月 1 日・小松市立保育所民営化事業を受け直接経営開始。同時に幼保連携型認定こども園に移行

認可定員 120 名(利用定員 120 名、内訳は 1 号 15 名/2 号 60 名/3 号 45 名)

施設名称を「蓮代寺こども園」とする

令和 3 年 3 月 18 日・新園舎完成(同年 5 月 1 日、落成式)

令和 3 年 4 月 1 日・利用定員を 105 名に変更(内訳は 1 号 15 名/2 号 45 名/3 号 45 名)

(1) 事業実績の概要

新園舎に移転して 1 年目。園舎の環境を生かした保育形態を模索し、コロナ対応と合わせて、教育・保育の見直しや行事・活動のあり方の検討を進めた。教育・保育方針“三つのゼン”を柱に、日々の活動が子どもの主体性を育むものであったか、育ちの連続性から見た主体性の育ちはどうであったかなどを、実践記録やドキュメンテーション等を通して園内研修を行ってきた。園周辺の豊かな環境との関わりや、蓮代寺太鼓等の地域の文化との関わりを大切にし、園児がそれらに興味関心をもって自ら関わろうとする中で、心動かされ、環境とのかかわり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして試行錯誤したり創意工夫したりするようになることが幼児期の学びであるとの理解のもと、日々の実践を深めた。四季折々の山々の姿や草木や昆虫などに触れることで、その不思議さや美しさ、おもしろさに心動かされる豊かな自然体験を得ることが出来た。また、園の周辺の草木を使って、よもぎおはぎ作りや笹寿司作りを行ったり、梅干し作り、梅シロップ作りなどの数々の“梅仕事”体験を行ったりして、地域の特性を生かした食育活動、サイエンス活動など様々な領域からの総合的な学びを大切にしていた。年長児が取り組む蓮代寺太鼓は、園児にとっても楽しい活動であり、年中児・年少児は憧れの活動として年長児の姿を追い、年長児は自信をもって意欲的に取り組み伝承に努めたが、コロナ禍により、発表の機会は限られた。

完全給食による温かいご飯の提供はもとより、四季折々の行事食や園外給食での手作り弁当、手作りパン、手作りおやつなど、給食の取り組みは園児および保護者から大変好評を得ている。また、地元食材を多く取り入れたり、野菜くずなどをリサイクラーに入れて肥料にしたり、子どもたちが育てた野菜を余すことなく調理して食することなど、今年度認定を受けた「エコ保育園・幼稚園・認定こども園」や、大和善隣館の SDGs 宣言等と関連づけた食育活動も教育・保育として園全体で積極的に取り組んだ。

保護者参加の行事が制限される中、日々の活動の様子を伝える手段としてドキュメンテーションに力を入れた。可視化の観点からは内容的に充実してきたが、さらに保育の質を上げるための記録として園内研修するなど、その価値を再認識することができた。また、今年度も日々の活動の姿を録画し、DVD にして年 3 回保護者に配布し育ちを共有することで、ドキュメンテーションとともに、保護者支援につなげた。玄関先に掲示したドキュメンテーションを送迎時に読み込む保護者も多く、DVD も大変喜ばれている。

小学校との接続では、一年生との交流活動や学校見学、学校紹介の DVD 視聴を通して就学への期待を膨らませていった。相互の理解を深めるために小学校教諭の園見学の計画を年 2 回立てたが、コロナ禍の状況と学校の予定の調整ができず、今年度は中止となり、次年度に持ち越しとなった。

地域に向けた子育て支援事業「きらきらぼし」は、コロナ禍の状況により、園庭にて 2 回の開催にとどまった。マイ保育園登録事業、マイ保育園地域子育て支援拠点化推進事業、一時預かり事業を入園を控えた乳幼児に限定し行い、情報紙「きらきらぼしだより」の配布や電話による相談事業など、地域の子育て家庭のニーズに合わせた取り組みに努めた。地域の方々に見ていただくような行事が行えない中、地域情報紙「スマイル」を年 4 回、環境だよりを年 3 回発行し、各町内に回覧することで園の取り組みを知っていただくよう努めた。令和 1 年度より始めた高齢者対象の“ふれあい食堂”は令和 3 年度も開催できず、当初計画していた買い物支援事業と合わせて、感染症の流行期の課題が持ち越しとなっている。また、災害時における蓮代寺町との協力体制構築のために協定書を結び、今後連携を進めていく。

看護師 2 名を配置し、乳児保育への対応、病児保育事業の体調不良児対応型の実施、および保健衛生管理・指導を充実させた。特に新型コロナウイルス感染防止のための取り組みは、看護師を中心として、職員一丸

となり注力した。職員と2歳児以上の園児のマスク使用を常態化し感染予防に努めた。園児の健康管理はもとより、感染症予防のための手洗い等の保健指導を通して、園児自らが健康な生活を送ることが出来る力を育てることを目指した。また、保護者からの健康相談等に丁寧に対応することで信頼関係を深めることができた。

「保育士等キャリアアップ研修」含め、ZOOM による県内外の各種研修への積極的参加や、園内研修やクラスごとの話し合い等、全職員の研修の機会の確保に努め、職員の資質向上を目指した。幼稚園教諭免許は特例講座により予定通り1名取得した。

●主たる整備事業

3月 駐車場生け垣設置工事

(2)月別在園児童数

蓮代寺	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3号 認定	0歳児	10	3	5	7	9	10	10	11	12	12	14	14	121
	1歳児	15	16	16	16	15	15	14	13	13	13	13	13	170
	2歳児	20	18	18	18	18	18	17	17	17	14	14	14	201
2号 認定	3歳児	15	13	13	13	13	13	13	13	13	14	14	14	159
	4歳児	15	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
	5歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
1号 認定	満3歳児	0	0	0	0	0	0	2	2	2	4	4	4	18
	3歳児	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
	4歳児	5	2	2	3	3	3	3	3	2	2	2	2	29
	5歳児	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
		105	87	89	92	93	94	93	94	94	96	96	96	1,118

(3)特別保育事業実績数

事業(件数)	体調不良児保育	子育て支援「園開放」	延長保育	一時預かり
令和2年度	27	0組	930	18
令和3年度	71	6組	141	19

6.幼保連携型認定こども園大和こども園分園やざき乳児保育園の経営

令和3年4月1日 大和こども園の分園として新規開設。(定員 29 名)

(1)事業実績の概要

開園初年度は、1 歳児 5 名でスタートし、年度末には園児数が 20 名まで増加した。
教育保育目標を「心身ともに健やかな子ども」「豊かな感性をもった子ども」「心やさしく思いやりのある子ども」とし、家庭的な雰囲気の中で、一人一人の子どもとの温かいふれあいを大切にして、子どもが心地よく過ごせるようにするとともに、子どもの発達の特性と発達の過程の理解に努め、子どもが主体的に環境と関わって活動し、充実感や満足感を味わうことができるよう日々の活動をすすめた。

5 月に、園庭の砂場・人工芝設置工事を行い、砂の感触を味わったり、園庭を走り回ったりして子どもたちが身体を動かして遊べる環境を整えた。また、天気の良い日には、近辺散歩に出かけたり、木場潟公園西園地まで足を延ばしたりして身近な環境に親しめるようにした。

離乳食は、それぞれの家庭の状況や発達の状況を考慮して進めていき、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しめるようにした。毎月、19 日の「食育の日」に加え、子どもたちが常に「食」に関心をもつことができるような取り組みを心がけ、旬の野菜等、様々な食材の色や形、香り、手触りを経験したり、栄養士と一緒におやつ作りに挑戦したりして様々な食べ物に興味を持てるようにした。

新型コロナウイルス感染症が流行する中、行事の開催は難しかったが、保育参観やクラスだより、ホームページ、動画配信を通して保護者に子ども達の様子を伝えけるとともに、登降園時や連絡帳できめ細やかなコミュニケーションをとり、信頼関係を築くようにした。

地域に向けた子育て支援事業「あっぷっぷ」を週 2 回開催し、手作り玩具やパネルシアター等、親子が楽しめる場の提供を行い、保護者からの相談にも丁寧に対応した。まん延防止等重点措置の期間は感染予防のため開催を見合わせることもあった。地域の方には、園だより、情報誌「ありんこ」を回覧して園の取り組みの情報発信を行った。

職員においては、職員研修規程に基づき、キャリアに応じてリモート研修を受講し、教育・保育の専門性の向上に努めた。

職員配置を工夫してノンコタクトタイムを取得し、業務の効率化を図った。

●主たる整備事業

園庭整備工事

太陽光発電設置工事

公用車導入(PHEV)

(2)月別在園児童数

やざき	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3号 認定	0歳児	6	0	1	3	3	4	6	7	8	12	12	12	80
	1歳児	11	5	5	6	6	6	6	7	7	7	7	7	76
	2歳児	12	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	8
	29	5	6	9	9	11	13	15	16	20	20	20	20	164

(3)特別保育事業実績数

事業(件数)	体調不良児保育	子育て支援「園開放」	延長保育	一時預かり
令和3年度		167 組	0	37

7. 芦城児童クラブ 1・芦城児童クラブ 2 の経営

平成 17 年 4 月 1 日・芦城小学校平成集義室にて開設

平成 22 年 4 月 1 日・「第一」「第二」に分割運営開始

平成 27 年 4 月 1 日・「子ども子育て新制度」施行により小学 6 年生までを事業対象にする。このため定員変更

(第一芦城っ子クラブ定員 45 名/第二芦城っ子クラブ定員 45 名)

平成 27 年 6 月 1 日・小松市意向により施設名を「芦城児童クラブ 1」「芦城児童クラブ 2」に変更

(1) 事業実績の概要

令和 3 年度は児童クラブ 1・2 合計で登録児童数は 133 名となり、支援員 11 名が【子どもたちの自己肯定感を育む】という施設の理念のもと保育にあたった。

令和 3 年度も引き続き新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底し、安心して過ごせる生活の場、健やかに遊べる環境作りに努めた。行事ではコロナ禍を意識しながら、新しく百人一首チャレンジや折り紙チャレンジ、フラフープ大会などソーシャルディスタンスでも楽しめる行事を取り入れた。

環境整備では新型コロナウイルス感染症対策に係る放課後児童健全育成事業(特例措置分)の交付金により、玄関には制菌マットと非接触検査機能付きエチケットウォッシャーを、保育室には効果的な換気を行うためのサーキュレーターを 4 台、手洗い場所にはハンドソープのオートディスペンサーとペーパーディスペンサーを設置した。そして 9 月にはエアコン吸込みフィルターの清掃と 3 月には保育室の床清掃を行った。また、おもちゃや本の殺菌ができる殺菌庫を購入した。

また、ICT 化の推進では A ルームの壁に大型モニターを設置し、支援員の ZOOM 研修や子どもたちが動画で学んだり、ZOOM を使った交流ができる環境を整えた。

交付金以外ではソーシャルディスタンス確保のための机を 4 月に 2 台、夏休み前に 5 台購入した。また古くなり機能が低下していた事務室のパソコンの買い替えを行った。

昨年度から導入したコドモンアプリの定着化により、毎月のお便りも含め、殆どのお知らせを配信できるようになり、ペーパーレス化による紙代や印刷代のコスト削減ができた。また、利用予定や児童数管理など把握がしやすくなり、支援員の仕事の効率化による業務改善にも役立てることができた。保護者との連携では日々の様子をコドモンや HP で伝えたり、アプリでの個別のやり取りなど信頼関係の構築に努めた。またアンケートを行い、保護者の不安や児童クラブに求めていることを知り、保育に活かすことができた。希望の保護者に対しては、随時、個人懇談も実施した。

支援員研修は ZOOM の活用のおかげでコロナ禍でありながらも積極的に研修に参加することができた。令和 3 年度は 1 名が支援員認定資格研修に参加し支援員資格を取得した。

(2) 月別登録在所児童数

開設日数		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計		
平日		18		18		22		14		1		20		21		20		18		15		18		17		202		
土曜日		4		5		4		5		3		4		5		4		4		4		4		4		50		
その他		3		0		0		6		19		0		0		0		2		4		0		5		39		
合計		25		23		26		25		23		24		26		24		24		23		22		26		291		
児童クラブ		一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	
児童数	1年生	14	16	15	16	15	16	15	18	13	18	12	15	12	14	12	15	13	14	12	15	12	13	12	15	157	185	
	2年生	11	12	9	11	9	12	12	12	11	11	8	11	8	11	9	11	10	11	10	10	8	7	9	9	114	128	
	3年生	7	5	6	4	6	4	7	7	6	9	5	4	5	3	5	3	5	4	4	4	4	2	5	2	65	51	
	4年生	3	1	0	1	1	1	2	2	2	2	0	1	0	1	1	1	1	1	0	1	0	1	0	1	10	14	
	5年生	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	5	
	6年生	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	
	合計	36	36	30	33	31	34	36	41	32	42	25	32	25	30	27	31	29	31	26	31	24	23	26	27	347	391	
うち加配児童		3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	36	24	

8.蓮代寺児童クラブの経営

平成 31 年 4 月 1 日・「蓮代寺児童クラブ」を指定管理者として運営開始(定員 25 名)(2019.4.1～2024.3.31 の 5 年間)

(1)事業実績の概要

令和 3 年度は登録児童が 36 名、支援員 4 名が「子どもたちの自己肯定感を育むために 無条件に愛される体験、褒められるという体験、共感される体験、感謝される体験、達成感を得られる体験を」の施設の理念のもと、保育にあたった。令和 2 年度に引き続き、保護者や子どもたちとの信頼関係の構築に力を入れて保育にあたった。

「環境の整備」として引き続き新型コロナウイルス感染症予防の為、机に距離を取るための線を付け、座る位置を固定した。カラーボックスを利用し、収納場所を増やし、個別で遊べるおもちゃや、本を増やした。遊具などの消毒をこまめに行い、室内の清掃も徹底して行った。

「児童の健全育成」として、感染症予防を行いながら、季節に応じた行事を計画し、誕生月の子は好きなケーキを選ぶことが出来る誕生会を行った。3 年生が計画を立てる行事を企画し、準備や進行を 3 年生が行った。

「コミュニケーション力を高める」取組として、子どもたちによる読み聞かせを行った。たくさんの子が参加し、聞く力、読む力(聞かせる力)を育んだ。

「支援員の研鑽、研修」では ZOOM を利用した研修会に積極的に参加し、スキルアップを図った。支援員同士、些細なことでも報告しあい、全員が同じ目的をもって保育にあたることが出来た。

「保護者との連携」として、月 1 回のお便りの発行、お迎え時に児童の様子を話し、保護者との連携を図った。

「学校・関係機関との連携」として、学校と年 3 回の打ち合わせを行い、子どもたちの情報を共有し学校と共に子どもたちの成長を見守った。授業参観に参加し、学校での子どもたちの様子を見たり、担任の先生と情報交換を行った。3 月に蓮代寺こども園に行き、新 1 年生のこども園での話を聞き、スムーズな受け入れを行うことが出来た。

(2) 月別登録在所児数

開設日数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平日		18	18	22	14	1	20	21	20	18	15	18	17	202
土曜日		4	5	4	5	3	4	5	4	4	4	4	4	50
その他		3	0	0	6	19	0	0	0	2	4	0	5	39
合計		25	23	26	25	23	24	26	24	24	23	22	26	291
児童数	1年生	6	7	7	8	8	7	7	7	8	7	7	6	85
	2年生	10	10	9	9	10	9	8	8	8	8	8	9	106
	3年生	3	3	3	3	1	3	3	3	3	2	2	2	31
	4年生	2	1	1	2	3	0	0	0	1	1	0	0	11
	5年生	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	6
	6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	22	22	21	23	23	20	18	18	20	18	17	17	239
うち加配児童		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24

9.大和ぬくもり大学の経営

昭和 19 年 6 月 15 日設立 昭和 33 年 4 月 1 日社会福祉事業法許可

平成 4 年 7 月 1 日「大和ぬくもり大学」開校

平成 9 年 10 月 小松市芦城センターに移転

令和 1 年 10 月～令和 2 年 6 月 小松市芦城センターリニューアル工事・・・全講座基本休講

(1)事業実績の概要

大和善隣館は、創設理念を原点として、現在に継承されている。平成 9 年 10 月に芦城センターが建設されると法人本部事務局と共に移転し、小松市が設置した小松市中央老人福祉センターの事業運営を受託し、現在は主として高齢者福祉事業として「大和ぬくもり大学」を開設し生涯学習講座を実施している。

●大和ぬくもり大学

福祉(ささえあい)と教育(まなびあい)を一体としてとらえ、これを統合的、有機的に運用するために、平成 4 年 7 月 1 日に開講した。小松市内在住の 55 歳以上の方を対象に、令和 4 年 3 月末現在、16 講座 3 クラブを開講し、実施日数 212 日、実施回数は年間 524 回、利用者延べ総数 4,494 名の利用があった。

新型コロナウイルス感染禍において、事業実施中の感染防止を第一に、各講座の自主性を重んじながらも、まん延防止重点措置期間の休講措置や個人の自粛を促しながら講座を維持してきた。結果、利用者は最盛期の 1/3 程度に減少してしまった。

現状、受講生の拡大や新講座の開設(人を集めること)が難しい状況であるが、利用者の多い講座の分離拡大やアフターコロナを見据えての準備・計画に取り組んで行きたい。

※歌謡民謡講座が歌謡曲クラブとして、感染防止を意識した運営へと切り替えた。

【大和ぬくもり大学年間利用者延べ人数】

講 座 名	回 数		利用人数		講 座 名	回 数		利用人数		講 座 名	回 数		利用人数	
	R2年度	R3年度	R2年度	R3年度		R2年度	R3年度	R2年度	R3年度		R2年度	R3年度	R2年度	R3年度
料 理	10	18	76	133	パソコン	37	48	292	281	合唱クラブ	17	34	416	842
社交ダンス	35	70	412	732	水 彩 画	15	20	92	99	囲碁クラブ	30	37	234	259
歌謡民謡	2	2	28	28	絵手紙→ちいさな水彩画	18	24	94	104	歌謡曲クラブ	12	12	177	177
俳 句	8	12	67	87	ぬくもりヨガ	17	16	113	130					
歴 史	10	12	57	74	陶 芸	16	22	48	79					
茶 道	11	12	125	123	リズムダンス	57	65	495	519					
華 道	15	16	86	78	加賀水引	9	10	153	122					
書 道	19	24	184	225	太 極 拳	12	12	666	666					
詩 吟	35	39	228	254										
歌謡舞踊	24	33	141	176						合 計	397	524	4,007	4,494

【大和ぬくもり大学 令和 3 年度実施行事】

年間行事である卒業式・大学祭は開催せず。

(2)相談事業・・・利用者 0 名

相談はなかった。

令和 3 年度事業報告は以上である。

社会福祉法人大和善隣館

理事長 和田 良一

役員名簿

令和4年3月31日

役員	氏名
理事	荒井 早苗
〃	池田 巧
〃	片桐 真二
〃	竹下 沙知
〃	田中 琴乃
〃	堂前 弘美
〃	広川 保
〃	森 都
〃	和田 良一
監事	飯田 清美
〃	堅田 光恵
〃	高田 眞次
〃	森 和美

役員	氏名
評議員	池田 辰雄
〃	遠州 賢
〃	柿本 佳美
〃	北川 潔
〃	釧崎 隆
〃	出口 春一
〃	中田 眞知子
〃	中山 美保子
〃	西田 頼子
〃	山本 敏明

※五十音順